

評 価 日	平成 2 6 年 2 月 1 8 日 (火)	
評 価 ・ 提 言	学 校 の 所 見 ・ 改 善 策 等	
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <p>①病弱教育・肢体不自由教育の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストを作成したが、活用は不十分である。 ・自立活動の指導は社会に出た時に活かされているか。社会に対して自ら発信していく力を育てたい。 ・様々な力が身につくこと、自己肯定感が高まり、学校生活を楽しめているかということも評価の指標となる。 ・「人の心がわかる」ということを育てる上で単一障がい学級と重複障がい学級の生徒が関わることも大切である。 <p>②ICT の活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最先端の機器（タブレット）の活用だけでなく、既存の機器や蓄積された指導法の活用という視点も大切にしたい。 <p>③対応力の向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートからは、学校の頑張りが感じられる。 ・保護者も目的意識や課題意識をもって活動していくと、学校に対する要望も変わってくるだろう。保護者と教職員と一緒に関わる機会を持つことが大切である。 <p>④関係機関との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療育園でのリハビリは生活モデルを原則としている。リハビリと学校の目標及び活動内容等に多少ズレがあるので、互いの連携の在り方の検討が必要である。 <p>⑤心の相談活動の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑談がないと深刻な相談はできない。雑談が大切である。 ・「いつも気にかけている」ということが大事な相談につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後活用し、より良いものにしていく。 ・コミュニケーション力や人と関わる力、体の機能等、内容や指導法を工夫する。 ・チェックリストで伸びを評価するだけでなく、エピソード記録等も併せて子どもたちの成長をとらえる。 ・互いが育つ面は確かにあるので、この視点について配慮する。 ・どのような内容・場面においてどのような ICT 機器を活用すると効果的かについて検証を進める。 ・子どものことをよく知り、根拠に基づいたしなやかな対応ができるように努める。 ・互いの目標を共有する方向で進めたい。今後、療育園と協議する場を設ける。 ・雑談から入って、その積み重ねを大切にしたい。 	

<p>⑥学校改善委員会について…特になし</p> <p>⑦40周年記念事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念誌を作成し、節目節目に記録を残すことは大切なことである。肢体不自由・病弱の教育が世の流れに対し、どう歩んできたかを整理したい。 <p>(2) 説明・公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価表のホームページ公表後の反響はあるか。ない場合には、マスコミの活用も考えられる。 <p>2. 今年度の県立学校裁量予算による特色のある学校運営の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPadの導入率は他学校に比べ高いのか。 ・就労セミナーについて報道が入らなかった点について、個人的なつながりで報道機関に伝えるのが効果的である。 <p>3 取り組み改善のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療、療育、リハビリ、教育の情報共有、連絡調整等について協議が必要である。 ・子どもが乱暴な言葉を使う背景に、携帯・スマホ・LINE等との関連がないか留意する。 ・一人一人の生徒が大変な状況の中で頑張っている。自分の調子や気持ちを「I・メッセージ」で伝える力をつけていくことが大事である。 ・研究会・授業実践を通してスキルアップの様子が伺われる。保護者に寄り添い、専門性を発揮して信頼を高め、より良い関係を築く。 ・権利の主体、生きる主体は誰なのかについていろいろな場面で考えさせたい。自分は大切な存在、でも周りの人も大切な存在であることを子どもたちに伝えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の歩みを整理しながら記念誌の作成を進める。 ・手話の歌などを児童生徒の活動に取り入れながら記念発表会などの準備を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に自己評価を公表し、多くの意見を得た。ホームページ等による情報発信については工夫していきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・導入率については県立特別支援学校は大体同じである。県の方針として、タブレット枚数は年々充実していく予定である。 ・肖像権等に配慮しながら、必要に応じて報道機関も活用していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・協議する場を設定する方向で考える。 ・乱暴な言葉やネットトラブル等について問題意識を持ち、継続的に指導にする。 ・児童生徒の自己表現力や自己肯定感を高める支援を継続していく。 ・ありがたい言葉に感謝する。今後も専門性及び対応力の向上に取り組む。 ・授業や学級経営を通して、自己理解・他者理解を促す。
--	---